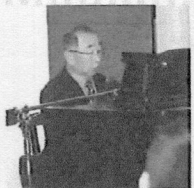


牛越 恂名誉教授の記念講演

「見えないものでもあるんだよ」



平成15年度
盛岡大学 聖陵同窓会 総会



私が盛岡大学に赴任した頃は、大学自体が新設大学で非常に意気盛んで、狭い厨川のキャンパスは活気に満ちていました。赴任と同時に学生部長も兼務することとなりました。良いこと、悪いこと沢山ありましたが、良いことしか覚えていません。それほど盛岡大学はよい大学だと十八年間勤めてそう実感しています。

当時の思い出として、八幡平研修があります。新入生の泊まりがけの研修でした。まだ、知り合って数ヶ月のクラスメイトどうしてジュースやお茶で親交を深め、随分盛り上がりました。また、肝試しとして女子学生に悲鳴を上げさせて喜んだりと今でも楽しい思い出です。

大学祭の前夜祭では、仮装行列が行われ、仮装して街を練り歩きました。当時

のIBCのキャスターも同行しユーモアがある学生達だと誉められました。

英米文学科や児童教育科の科長先生たちは、貫禄も十分、そしてその暖かみのある雰囲気、事務室がなごみ、私たちも元気づけられました。このように教員側も様々で、いろいろあだ名がつけられていたようでした。また、学生さんに対しても、学生部であだ名をつけたりしていました。

卒業生の中にすばらしい教員となった人もいます。県北の小規模校の教員で、子ども音楽コンクールに参加し、子どもたちを指導していました。私が審査員としてそのすばらしい合唱に対してお手紙を出しました。すると逆に御礼の手紙と、子どもたち自身で作った羊をいただき、その子どもたちを指導するその卒業生である教員の教育観、そしてその実践力に感動しました。是非、この卒業生のように後輩の盛大生も続いてほしいと思います。

した。

音楽の教師を五十年間しておりありますが、一つだけ教訓めたことを述べます。音楽とは、優しさを培うために行うものだと常に学生さんには教えてきました。そして、音楽の一つ社会的な面に、仲間をつくる、お互いに助け合う、という目的があります。しかし、残念ながら、音楽を志している人間の中にも、その人の表の部分だけで判断してしまい、追いつめてしまう人もいます。どうか、盛大生の皆さん、その人の心の内なるものを、見えないものでも見るように努力して下さい。皆さんは、それができる人たちだと私は思っております。目立たずにコツコツ努力している人に目を向けて下さい。常に弱い人の立場に立って社会に貢献できる人になって下さい。そして、自分の一つの道を是非輝くものにして下さい。